

特別展「全国の郷土人形展」第1・2民芸館

～5月7日(日) <観覧料 有料>

郷土人形は、江戸時代中頃より節句物、縁起物として日本各地で制作されました。庶民の間で身近な紙、木、土といった材料で作られた人形には、暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められたのです。本展では、京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形など、素朴な美しさをたたえた全国各地の郷土人形を紹介します。

※改修工事のため5月9日(火)～6月30日(金)まで第1・第2民芸館は休館



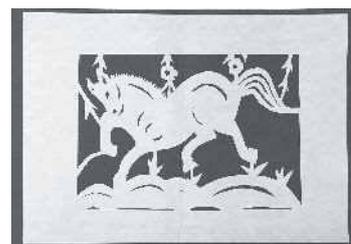
浜松張子 酒買い猫

企画展「柳宗悦と愛知の民芸」第1・2民芸館

7月1日(土)～9月24日(日) <観覧料 無料>

民藝運動の創始者・柳宗悦(1889-1961)は、その著書『手仕事の日本』(1948年発行)の中で、民藝調査を行った昭和15年頃の手仕事、愛知県では瀬戸・犬山・常滑のやきもの、扶桑の端折傘、有松・鳴海の絞り染め、知多木綿、三河木綿、足助紙、菟足神社の風車、花祭のざぜち(切り紙)について書き記しています。また、昭和31年には、名古屋市の鉦薬師にて円空仏を発見しています。

今回は柳をはじめ民藝の同人らが調査した愛知県の手仕事について、館蔵品より約200点紹介します。



東栄町花祭 ざぜち

豊田市民芸館開館40周年

特別展「沖縄の美」(日本民藝館巡回展)第1・2民芸館

10月7日(土)～12月3日(日) <観覧料 有料>

琉球王国として独自の文化を形成してきた沖縄。その地を柳宗悦が初めて訪問したのは1938年のことでした。以来、4回にわたり工芸調査や蒐集を重ね、展覧会などを通してその魅力を紹介してきました。日本民藝館が所蔵する紅型や織物、陶器などを展覧し、あらためて沖縄が「美の宝庫」であることを紹介します。本展は2022年、沖縄が日本へ復帰して50年目の節目にあたり日本民藝館にて開催した展覧会の巡回展となります。



水色地遠山に落雁文様紅型衣裳

豊田市民芸館開館40周年

特別展「河井寛次郎(仮称)」第1・2民芸館

12月16日(土)～令和6年3月10日(日) <観覧料 有料>

当館開館40周年事業の一環として、開館50周年を迎えた京都の河井寛次郎記念館の所蔵品より、陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)の作品を紹介します。東洋陶磁の技法を駆使した初期作品、民藝運動を牽引する中での実用を意識した中期作品、独創的な造形美へと変化した後期作品を展観、また、昭和・戦後期に作られた木彫像や木彫面、真鍮のキセル、河井の人間性・精神性を表現した書などもあわせて紹介し、河井の創作活動の全貌を振り返ります。



白地草花絵扁壺

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和5年5月21日(日)まで	令和4年度民芸館講座作品展
5月27日(土)～	7月30日(日) バーナード・リーチの訪れた窯
8月6日(日)～	8月27日(日) みんなの作品展
9月2日(土)～	11月26日(日) ちゅらさん沖縄展
12月2日(土)～	令和6年2月4日(日) 郷土玩具展 干支と辰
2月20日(火)～	5月19日(日) 令和5年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。